

令和6年度 自己評価書

学校名

北海道厚真高等学校

1 本年度の重点目標

- 学校教育目標 よき市民 よき社会人を育てる
- スクールミッション
- (1) 個々の生徒の特性等に対応した学習指導及びキャリア教育を通じて、主体的な進路の選択決定をするための資質・能力を身に付けた生徒の育成
- (2) 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- (3) 適切な言語活動とおして自己表現力を高めた生徒の育成
- (4) 広い視野と高い社会性を身に付けた生徒の育成
- スクールポリシー
- (1) 育成を目指す資質・能力に関する方針～厚真高校が目指す「5つの力」(中項目に記載)
- (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (3) 入学者の受入に関する方針

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	・基礎的・基本的な知識・技能	(指 標) ・生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組に係る肯定的な回答が70%以上となることを目指す。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	A	肯定的回答が昨年度85.4%、今年度は94%と上昇した。職員の取組は3.4で同様。学習に向かう姿勢の乏しい生徒がいるが、学習習慣の確立に向け、継続的な指導が必要。
		(指 標) ・生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%以上となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	B	肯定的回答が昨年度45.1%、今年度は42%と比べ減少傾向にある。職員の取組は3.1と上昇したが低い傾向。オンライン学習を活用し、家庭学習の啓発を実施したい。
		(指 標) ○新規 ・ICT活用し、わかりやすい授業について肯定的回答70%以上を目指す。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	令和4年度86%、令和5年度82%、今年度は89%で、ICT利用の肯定的な回答が増加傾向である。
生徒指導	・人間関係構築力: 自分を知り、相手の気持ちを推察することにより、良好な人間関係を築き力	(指 標) ・朝の遅刻を、1人あたり前年度比減を目指し、指導啓発を行う。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	B	B	・昨年度の実数は248名であり、今年度は315名と増加傾向にあるが、常習化している生徒が数名在籍しており、全体的には減少傾向にある。引き続き、指導の継続をおこなう。
		(指 標) ・いじめアンケートで、「いじめはどんな理由があっても許されない」との回答率100%を目指し、そのための啓発指導を行う。 (回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)	B	A	・「そう思う」との回答91%、「わからない」は、今年度はいいない。職員の取組は3.7と高い。次年度もいじめ問題の認識、早期の対処と組織的な対応の充実を図る。
進路指導	・協働力: 互いの良さを認めながら、共に取り組む力	(指 標) ・進学・就職希望の年度内進路決定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	A	A	・進路決定100%、職員の取組も3.7と高い。次年度も個別の職業指導も含め、継続的に職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。
	・キャリア形成力: 生き方や進路について考え、自らを律し行動する力	(指 標) ・生徒の資格・検定取得等の取組として受検率100%を目指すとともに合格率の向上を図る。 (受検率が80%以上であれば評価A、60%以上が評価B、60%未満を評価Cとする)	B	B	・検定の受検率は85.5%であった。担当分掌、学年や教科と連携し、受検率・合格率の向上を図る必要がある。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・学習指導について、本校の「スクールポリシー」を育むために、生徒の実態に即した取り組みを進める。
- ・生徒指導について、家庭との連携に努め、全教員による日常指導や予防的活動で規範意識を育成する。
- ・進路指導について、望ましい職業観を育み、進路意識を高め、資格・検定取得へ積極的な取組を涵養する。